

# 精神病及神經病患者 128 名ノ widal 氏

## 反應凝集度ニ就テ

金澤醫科大學精神病學教室(主任早尾教授)

專攻生 岡 部 保

*Ho Okabe*

(昭和12年8月24日受附)

### 抄 錄

既往ニ於テ「チフス罹患並ニ豫防接種ナキ89例，豫防接種セシ24例，「チフス罹患セシ15例，計128例」精神病(大多數)及神經病(少數)患者血清ノW氏反應ヲ検査シ次ノ結論ヲ得タリ。

- 1) 各診斷液ニヨル平均凝集度ハ既往ニ於テ豫防接種セシモノ最モ高ク次ニ罹患セシモノ，罹患及ビ豫防接種共ニ無キモノノ順ナリ。
- 2) 各診斷液ニヨリ平均凝集度ニ大差アリ，腸チフス 診斷液ニヨルモノ最モ高ク次ハ P.B 液，P.A 液ノ順ナリ。
- 3) 疾病ノ相違ニヨリ(1)及ビ(2)關係ニ於ケル凝集度ハ多少ノ相違ヲ認ム。
- 4) 「チフス罹患及ビ豫防接種等ナキ全89例ノ平均凝集度ハ腸チフス 診斷液ニ對シ 67.9倍，P.B 液 25.2 倍，P.A 液ハ遙ニ低下ス。
- 5) 既往ニ於テ豫防接種セシ躁病患者ハ腸チフス 診斷液ニ對シ，同微毒疾患ノ P.B 液ニ對シ凝集度1000 倍ヲ示セル各1例ヲ認ム。
- 6) 豫防接種後ノ經過年數ニヨリ凝集度ニ差異ヲ生ジ年數ノ短キモノハ高キ傾向アリ。

### 目 次

緒　　言	於ケル凝集度
第1章　検査材料及ビ検査方法	第6節　麻痺性痴呆以外ノ微毒陽性疾
第2章　検査成績	患者W氏反應ニ於ケル凝集度
第1節　麻痺性痴呆患者ノW氏反應ニ 於ケル凝集度	第7節　其ノ他ノ疾患ニ於ケルW氏反 應ノ凝集度
第2節　早発性痴呆患者ノW氏反應ニ 於ケル凝集度	第8節　全例ノW氏反應凝集度ノ總平 均
第3節　躁鬱病患者ノW氏反應ニ於ケ ル凝集度	第9節　興味アル症例ニ就テ
第4節　「ヒステリー 及變質病 患者ニ 於ケルW氏反應ノ凝集度	第3章　總　括
第5節　動脈硬化性疾患ノW氏反應ニ	第4章　考　按
	結　論
	文　獻

## 緒　　言

諸多ノ文獻ヲ徵スルニ既往ニ於テ「チフス」罹患セシモノ或ハ「チフス」豫防接種セシモノハ勿論，健康人及ビ非チフス性疾患ニ於テモ Widal 氏反應凝集度可ナリ高度ナル事アリト報告セラル。

然ルニ精神病患者ニ對スル凝集度ヲ検査セシモノ殆ンド之ヲ見ズ、茲ニ於テ余ハ身體的異常ナキ精神病患者ニ就キ凝集反応ノ如何ヲ檢シ，更ニ既往ニ於テ「チフス」豫防接種セシモノ及ビ「チフス」罹患セシモノ等ニ分離シ，其ノ凝集度ヲ比較検査スルコトハ興味アルコトナリト考へ爰ニ本検査ニ從事シ，其ノ結果ヲ報告セントス。

## 第1章 検査材料及ビ検査方法

検査材料 松原病院在院中ノ精神病患者ヲ主トシ既往ニ於テ「チフス」罹患及ビ豫防接種等ナキモノ 89 例，豫防接種セシモノ 24 例（1 年—23 年前接種），「チフス」罹患セシモノ 15 例（3 年—12 年前罹患），合計 128 例ヲ選ビタリ。内早発性癡呆患者ニシテ非進行性肺尖加答兒ヲ合併セシ 1 例及ビ關節リヨウマチスノ 1 例ヲ除キ他ハ悉ク比較的健康ニシテ發熱性疾患ノ合併ヲ認メザルナル者ナリ。

検査方法 探血後分離セシ 血清ヲ 55°C ニ 30 分間 静置シ，非動性トナシタルモノヲ 小試験管内ニテ 25 倍，50 倍，100 倍，200 倍，500 倍，1000 倍，2000 倍（但シ「バラチフス A」ハ 50 倍稀釋ヲ 最低トス）ニ稀釋セシメ，之ニ傳染病研究所製腸チフス，「バラチフス A 及ビ B 各診斷液ヲ一滴づ、滴加セシメ充分振盪シ，37°C ニ 2 時間静置後室温ニ放置シ，24 時間後検査セリ。

肉眼ニテ判然セル凝集ノ程度ニヨリテ  $\oplus$ ,  $\oplus\oplus$ ,  $\oplus\oplus\oplus$ ニ分類シ，又「ルーペ」ヲ以テ漸ク認メタルモノハ  $\oplus$  トス，尙 25「—」，50「—」ハ其ノ稀釋倍ニ於テ陰性ナルコトヲ示ス。

検査上ノ注意 本検査中既往ニ於テ「チフス」罹患トアルハ恐ラク其ノ大部ハ腸チフス」ナランモ其ノ據ル所ハ精神病患者並ニ家族ノ供述ニ過ギズ。從ツテ其ノ正否ハ明ナラザルヲ以テ一概ニ腸チフス」ト斷言シ得ズサレバ茲ニハ單ニ「チフス」罹患ト記載セリ。又既往ニ於テ「チフスワクチン」注射施行トアルハ多クノ場合腸チフスワクチン」注射ノ場合ナランモ之又前述ノ理由ニ基キ一概ニ斷言シ得ザルヲ以テ以下單ニ「チフスワクチン」注射トシテ記述セリ。

尙ホ「バラチフス A」，「バラチフス B」云々ノ用語ハ以下便宜上 P.A. 及ビ P.B. ナル略語ヲ使用セリ。

## 第2章 検　　査　　成　　績

### 第1節 麻痺性癡呆患者ノ W 氏反應ニ於ケル凝集度

#### 第1項 「チフス」罹患或ハ豫防接種等ノ既往症ナキ 16 例ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

1) 腸「チフス」診斷液 25 倍陰性 2 例，陽性 3 例，50 倍陽性 6 例，100 倍陽性 3 例，200 倍陽性 1 例，500 倍陽性 1 例ナリ。其ノ平均ハ 85.9 倍トナリ，即チ既往症ナキモノニテモ可ナリ高度ノ凝集價ヲ示セリ。

2) P.A 診斷液 200 倍陽性 1 例ノミニシテ他ハ悉ク 25 倍陰性ヲ示シ，其ノ平均ハ不明ナリ。

3) P.B 診斷液 25 倍陽性 4 例，他ハ悉ク陰性ヲ呈シ，平均ハ 6.25 倍ナリ。

第1表 麻痺性癱瘓患者ノ「チフス」罹患或ハ豫防接種等ノ既往症ナキ16例ノWidal氏反応

検査番號	姓名	性別	W氏反應凝集度		
			T	P.A	P.B
1	新 ○	♂	25++, 50+, 100±	50-	25-
2	浅 ○	〃	25±	50-	25-
3	村 ○	〃	25+, 50±	50-	25-
4	山 ○	〃	25+, 50±	50-	25-
5	島 ○	〃	25±	50-	25-
6	國 ○	♀	25-	50-	25-
7	中 ○	♂	25++, 50+, 100±	50+, 100+ 200+	25±
8	潮 ○	〃	25-	50-	25-
9	戸 ○	♀	25±, 50±	50-	25±
10	富 ○	♂	25±	50-	25-
11	川 ○	〃	25++, 50+, 100+ 200±	50-	25-
12	米 ○	〃	25+, 50±	50-	25-
13	高 ○	〃	25+, 50+, 100±	50-	25-
14	福 ○	♀	25++, 50+, 100+ 200±, 500±	50-	25-
15	矢 ○	♂	25++, 50+	50-	25+
16	北 ○	〃	25+, 50±	50-	25±
總 平 均			85.9	?	6.25

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

第2項 既往=於テ「チフスワクチン」或ハ混合ワクチン」ヲ注射セシ6例

(1年—14年前接種)ノ凝集稀釋倍數=就テ

第2表 麻痺性癱瘓患者ノ既往=於テ豫防接種セシ6例ノWidal氏反応

検査番號	姓名	性別	豫防注射ノ種類 及ビ經過時間	W氏反應凝集度		
				T	P.A	P.B
1	沼 ○	♂	「チフスワクチン注射 3年前	25++, 50+, 100±	50-	25-
2	永 ○	〃	〃 8年前	25++, 50+, 100±	50-	25-
3	牛 ○	〃	〃 10年前	25++, 50+, 100±	50-	25-
4	中 ○	〃	混合ワクチン注射 1年前	25++, 50++, 100++ 200+, 500±	50-	25++, 50+ 100±
5	二 ○	〃	〃 2年前	25++, 50+, 100+	50-	25++, 50+ 100+
6	米 ○	〃	〃 14年前	25++, 50+, 100±	50-	25++, 50+ 100±
總 平 均				166.6	50-	50.0

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

- 1) 腸「チフス」診斷液 500 倍陽性 1 例，他ハ悉ク 100 倍陽性ヲ示シ，其ノ平均ハ 166.6 倍トナル。
- 2) P.A 診斷液悉ク 50 倍陰性ナリ。
- 3) P.B 診斷液 25 倍陰性 3 例，100 倍陽性 3 例，平均 50 倍ナリ。

**第 3 項** 既往ニ於テ「チフス」罹患セシ 3 例(5 年—12 年  
前罹患)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第 3 表 麻痺性癡呆患者ノ既往ニ於テ「チフス」罹患セシ 3 例ノ Widal 氏反應

検査番號	姓名	性別	経過時間	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	南 ○	♂	5 年前	25+, 50+ 100+, 200±	50—	25—
2	淺 ○	〃	9 年前	25+, 50+ 100+, 200±	50—	25±
3	吉 ○	〃	12 年前	25+, 50+ 100±	50—	25±
總 平 均				166.6	50—	16.6

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25—」ハ 0 トシテ計算セリ。

- 1) 腸「チフス」診斷液 100 倍陽性 1 例，200 倍陽性 2 例ナリ。其ノ平均ハ 166.6 倍トナル。
- 2) P.A 診斷液悉ク 50 倍陰性ナリ。
- 3) P.B 診斷液 25 倍陰性 1 例，陽性 2 例，平均 16.6 倍ナリ。

**第 2 節** 早發性癡呆患者ノ W 氏反應ニ於ケル凝集度

**第 1 項** 「チフス」罹患或ハ豫防接種等ノ既往症ナキ 17 例  
ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

- 1) 腸「チフス」診斷液 25 倍陰性 3 例，陽性 3 例，50 倍陽性 8 例，100 倍陽性 3 例ナリ。  
其ノ平均ハ 45.5 倍トナル。
- 2) P.A 診斷液 50 倍陽性 1 例，他ハ悉ク陰性ナリ。
- 3) 診斷液 25 倍陰性 11 例，25 倍陽性 2 例，50 倍陽性 3 例，200 倍陽性 1 例ナリ。其ノ平均  
ハ 23.5 倍ナリ。

**第 2 項** 既往ニ於テ「チフスワクチン」或ハ混合ワクチン注射セシ 5 例(3  
年—16 年前接種)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

- 1) 腸「チフス」診斷液 50 倍陽性，100 倍陽性各 1 例，500 倍陽性 3 例ニシテ平均ハ 330 倍ナ  
リ。
- 2) P.A 診斷液 50 倍陰性 3 例，陽性 2 例，平均 20 倍ナリ。
- 3) P.B 診斷液 25 倍陰性 1 例，50 倍陽性 4 例，平均ハ 40 倍ナリ。

**第 3 項** 既往ニ於テ「チフス」罹患セシ 5 例  
(3 年—11 年前罹患)ノ凝集稀釋倍數

第4表 早發性癡呆患者ノ既往ニ於テ「チフス」罹患並ニ豫防接種等  
ナキ17例ノ Widal 氏反應

検査番號	姓名	性別	病名	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	長○川○	♂	早發性癡呆	25+, 50+ 100-	50-	25±
2	淺○茄○	"	早發性癡呆 肺尖加答兒合併	25+, 50+ 100±	50±	25+, 50±
3	中○初○	♀	早發性癡呆	25+, 50±	50-	25±
4	粕○勝○	♂	"	25+, 50±	50-	25-
5	前○貞○	"	"	25-	50-	25-
6	小○善○	"	"	25-	50-	25-
7	小○ス○	♀	"	25±	50-	25-
8	尾○庄○	♂	"	25±	50-	25-
9	山○リ○	♀	"	25+, 50±	50-	25+, 50+
10	澤○修○	♂	"	25+, 50±	50-	25-
11	藤○虎○	"	"	25+, 50±	50-	25-
12	大○清○	"	"	25+, 50+ 100±	50-	25+, 50+ 100+, 200±
13	池○政○	"	"	25+, 50±	50-	25-
14	安○英○	"	"	25±	50-	25-
15	坂○ひ○	♀	"	25-	50-	25-
16	板○安○	♂	パラフレニイ	25+, 50+ 100±	50-	25+, 50±
17	丸○守○	"	"	25+, 50±	50-	25-
總 平 均				45.5	?	23.5

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

第5表 早發性癡呆患者ノ既往ニ於テ豫防接種セシ5例ノ Widal 氏反應

検査番號	姓名	性別	豫防注射ノ種類 及ビ經過時間	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	余○六○	♂	チフスワクチン注射 3年前	25+, 50+, 100+ 200+, 500±	50-	25+, 50±
2	松○み○	♀	" 9年前	25++, 50++, 100++ 200+, 500±	50-	25+, 50±
3	山○鐵○	♂	" 10年前	25+, 50+, 100±	50±	25+, 50±
4	森○助○	"	" 16年前	25+, 50±	50-	25-
5	谷○助○	"	混合ワクチン注射 5年前	25++, 50++, 100++ 200+, 500+	50±, 100-	25+, 50±
總 平 均				330.0	?	40.0

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

- 1) 腸「チフス」診斷液 100倍陽性1例, 200倍陽性3例, 500倍陽性1例ニシテ平均240

第6表 早發性癡呆患者ノ既往ニ於テ「チフス」罹患セシ 5 例ノ Widal 氏反應

検査番號	姓名	性別	経過時間	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	國 ○	♀	3年前	25++, 50++, 100+ 200+	50-	25+, 50±
2	宮 ○	♂	6年前	25++, 50++, 100+ 200±	50-	25+, 50±
3	堀 ○	"	7年前	25++, 50++, 100++ 200+, 500±	50-	25-
4	前 ○	♀	8年前	25++, 50+, 100±	50-	25-
5	青 ○	"	11年前	25++, 50+, 100+ 200±	50-	25-
總 平 均				240.0	50-	20.0

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ 0 トシテ計算セリ。

倍ナリ。

- 2) P.A 診斷液悉ク 50 倍陰性ナリ。
- 3) P.B 診斷液 25 倍陰性 3 例, 50 倍陽性 2 例, 其ノ平均 20 倍ナリ。

### 第3節 躁鬱病患者ノ W 氏 反 應 ニ 於ケル 凝集度

第1項 「チフス」罹患或ハ豫防接種等ノ既往症ナキ 27 例ノ 凝集稀釋倍數ニ就テ

第7表 躁鬱病患者ノ既往ニ於テ「チフス」罹患或ハ豫防接種等  
ノナキ 27 例ノ Widal 氏反應

検査番號	姓 名	性 別	病 名	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	山 ○	♀	躁 郁 病	25+, 50-	50-	25±
2	稻 ○	"	"	25±	50-	25-
3	竹 ○	"	"	25+, 50±	50-	25-
4	中 ○	"	"	25++, 50+, 100±	50-	25-
5	北 ○	"	"	25±	50-	25-
6	高 ○	"	"	25+, 50-	50-	25-
7	村 ○	♂	"	25+, 50-	50-	25+
8	江 ○	"	"	25±	50-	25-
9	中 ○ 千	♀	"	25++, 50+, 100±	50-	25±
10	日 ○	♂	"	25±	50-	25-
11	林 ○	"	"	25+, 50±	50-	25+, 50±
12	山 ○ 松	"	"	25-	50-	25-
13	橋 ○	"	"	25++, 50++, 100++ 200++, 500+	50-	50+, 50+ 100±

14	島 ○	〃	〃	25+, 50±	50-	25+, 50+ 100±
15	道 ○	〃	〃	25+, 50+, 100+ 200+	50-	25+, 50+ 100+
16	丸 ○	♀	〃	25+, 50+, 200±	50-	25+, 50±
17	岸 ○	〃	〃	25+, 50±	50-	25±
18	中 ○ ツ	〃	〃	25+, 50+, 100+ 200±	50-	25+, 50+ 100+, 200±
19	大 ○	〃	〃	25+, 50+, 100±	50-	25+, 50±
20	加 ○	♂	鬱 憂 症	25±	50-	25+, 50±
21	長 ○	〃	〃	25-	50-	25-
22	古 ○	〃	〃	25+, 50+, 100+ 200±	50-	25+, 50+
23	吉 ○	〃	〃	25+, 50±	50-	25-
24	野 ○	〃	〃	25+, 50+, 100±	50-	25-
25	野 ○ み	♀	〃	25+, 50±	50-	25-
26	南 ○	♂	〃	25+, 50±	50-	25±
27	中 ○ 治	〃	無慾性抑鬱症	25±	50-	25+
總 平 均				84.2	50-	33.3

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

- 1) 腸「チフス」診断液 25倍陰性2例，陽性9例，50倍陽性7例，100倍陽性，200倍陽性各4例，500倍陽性1例ナリ。其ノ平均ハ84.2倍トナル。
- 2) P.A 診断液 悉ク50倍陰性ナリ。
- 3) P.B 診断液 25倍陰性12例，陽性6例，50倍陽性5例，100倍陽性3例，200倍陽性1例ナリ。其ノ平均ハ33.3倍トナル。

## 第2項 既往ニ於テ「チフスワクチン」或ハ混合ワクチン」

注射セシ5例(2年—19年前接種)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

- 1) 腸「チフス」診断液 25倍陰性，100倍陽性各1例，200倍陽性2例，1000倍陽性1例，其ノ平均ハ300倍トナル。

第8表 躁鬱病患者ノ既往ニ於テ豫防接種セシ5例ノWidal氏反應

検査番號	姓 名	性 別	豫防注射ノ種類 及ビ経過時間	W氏反應凝集度		
				T	P. A	P. B
1	中 ○	♀	チフスワクチン注射 7年前	25+, 50+, 100+ 200±	50-	25-
2	富 ○	♂	〃 9年前	25+, 50+, 100+ 200±	50-	25+, 50+
3	石 ○	♀	〃 10年前	25+, 50+, 100±	50-	25+, 50±
4	山 ○	〃	〃 19年前	25-	50-	25-
5	長 ○	♂	混合ワクチン注射 2年前	25++, 50++, 100++ 200++, 500+, 1000±	50±	25++, 50++ 100+, 200+
總 平 均				300.0	?	60.0

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

- 2) P.A 診斷液 50倍陽性 1 例, 他ハ悉ク 50倍陰性ニシテ平均ハ不明ナリ.  
 3) P.B 診斷液 25倍陰性, 50倍陽性各 2 例, 200倍陽性 1 例ナリ. 其ノ平均ハ 60倍ナリ.

**第3項 既往ニ於テ「チフス」罹患セシ 3 例(4 年—8 年前  
罹患)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ**

**第9表 躁鬱病患者ノ既往ニ於テ「チフス」罹患セシ 3 例ノ Widal 氏反應**

検査番號	姓名	性別	経過時間	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	吉 ○	♂	4 年前	25++, 50++ 100±	50—	25±
2	安 ○	〃	5 年前	25+, 50+ 100±	50—	25++, 50++ 100+
3	櫻 ○	〃	8 年前	25++, 50+ 100+, 200±	50±	25+, 50±
總 平 均				133.3	?	58.3

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25—」ハ 0 トシテ計算セリ.

- 1) 腸「チフス」診斷液 100 倍陽性 2 例, 200 倍陽性 1 例, 平均 133.3 倍ナリ.  
 2) P.A 診斷液 50 倍陰性 2 例, 陽性 1 例, 平均ハ不明ナリ.  
 3) P.B 診斷液 25 倍陽性, 50 倍陽性, 100 倍陽性各 1 例ニシテ平均ハ 58.3 倍ナリ.

**第4節 「ヒステリー」及ビ変質病患者ニ於ケル W 氏反應ノ凝集度**

**第1項 「チフス」罹患或ハ豫防接種等ノ既往症ナキ 11 例ニ就テ**

**第10表 「ヒステリー」及ビ変質病患者ニ於ケル「チフス」罹患  
或ハ豫防接種等ノ既往症ナキ 11 例ノ Widal 氏反應**

検査番號	姓 名	性 別	病 名	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	枷 ○	♂	ヒステリー症	25++, 50+ 100—	50—	25++, 50+ 100±
2	片 ○	〃	〃	25++, 50+ 100±	50—	25—
3	塚 ○	♀	〃	25±	50—	25±
4	金 ○	〃	〃	25+, 50±	50—	25+, 50±
5	關 ○	〃	〃	25+, 50+ 100±	50—	25++, 50+ 100+, 200±
6	自 ○	♂	神經衰弱及ビ ヒステリー症	25++, 50+ 100±	50—	25—
7	三 ○	〃	精神病性變質者	25+	50—	25—
8	北 ○	〃	〃	25+, 50±	50—	25—
9	北 ○ 信	〃	〃	25±	50—	25±
10	高 ○	♀	神 經 質	25—	50—	25—
11	米 ○	♂	強迫觀念症	25—	50—	25—
總 平 均				47.7	50—	36.3

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25—」ハ 0 トシテ計算セリ.

1) 腸「チフス」診断液 25倍陰性2例, 25倍, 50倍, 100倍各陽性3例ナリ。其ノ平均ハ47.7倍トナル。

2) P.A 診断液 悉ク50倍陰性ナリ。

3) P.B 診断液 25倍陰性6例, 陽性2例, 50倍, 100倍, 200倍各陽性1例, 平均36.3倍ナリ。

### 第2項 既往ニ於テ「チフスワクチン」或ハ混合ワクチン」

注射セシ3例(1年—6年前接種)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第11表 「ヒステリー」及ビ変質病患者ニ於テ既往ニ豫防接種セシ3ノ例 Widal氏反応

検査番號	姓名	性別	豫防注射ノ種類 及ビ経過時間	W氏反應凝集度		
				T	P.A	P.B
1	濱 ○	♂	チフスワクチン注射 1年 前	25+, 50+, 100±	50-	25+, 50±
2	福 ○	♀	" 3年 前	25++, 50+, 100+ 200+, 500±	50-	25++, 50+
3	松 ○	"	混合ワクチン注射 6年 前	25++, 50+, 100++ 200+, 500±	50+	25++, 50+ 100+
総 平 均				366.6	?	66.6

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25—」ハ0トシテ計算セリ。

1) 腸「チフス」診断液 100倍陽性1例, 500倍陽性2例, 平均ハ366.6倍ナリ。

2) P.A 診断液 50倍陰性2例, 陽性1例, 平均不明ナリ。

3) P.B 診断液 50倍陽性2例, 100倍陽性1例ニシテ其ノ平均66.6倍ナリ。

### 第3項 既往ニ於テ「チフス」罹患セシ2例(3年及ビ

11年前罹患)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第12表 「ヒステリー」及ビ変質病患者ノ既往ニ於テ  
「チフス」罹患セシ2例ノ Widal氏反応

検査番號	姓名	性別	経過時間	W氏反應凝集度		
				T	P.A	P.B
1	濱 ○	♂	3年前	25++, 50+ 100+, 200±	50+	25+, 50+ 100±
2	上 ○	♂	11年前	25+, 50±	50-	25+, 50±
総 平 均				125.0	?	75.0

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25—」ハ0トシテ計算セリ。

1) 腸「チフス」診断液 50倍陽性, 200倍陽性各1例, 平均125倍ナリ。

2) P.A 診断液 50倍陰性陰性, 陽性各1例, 平均不明ナリ。

3) P.B 診断液 50倍, 100倍各陽性1例, 平均ハ75倍ナリ。

### 第5節 動脈硬化性疾患ノW氏反応ニ於ケル凝集度

#### 第1項 「チフス」罹患及ビ豫防接種等ノ既往症ナキ4

例ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第13表 動脈硬化性疾患ノ Widal 氏反應

検査番號	姓名	性別	病名	罹患及び接種ノ有無及ビ経過時間	W 氏 反 應 凝 集 度		
					T	P. A	P. B
1	梶 ○	♂	脳動脈硬化	ナシ	25-	50-	25±
2	西 ○	〃	〃	〃	25+, 50±	50-	25+, 50±
3	清 ○	♀	動脈硬化性 癡呆	〃	25±	50-	25-
4	馬 ○	♂	中老性癡呆	〃	25+, 50+ 100±	50-	25+
				平均	43.7	50-	25.0
5	西○庄	♂	脳動脈硬化	10年前 軽チフス罹患	25+, 50±	50-	25-

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

1) 腸「チフス」診断液 25倍陰性、陽性、50倍陽性、100倍陽性各1例ナリ。其ノ平均ハ43.7倍ナリ。

2) P.A 診断液 悉ク50倍陰性ナリ。

3) P.B 診断液25倍陰性1例、陽性2例、50倍陽性1例ニシテ其ノ平均ハ25倍ナリ。

又10年前輕度「チフス」罹患セシ1例ニ於テハ大體ニ於テ上記ノ罹患及び接種等無キモノト比較シ大差ヲ認メ得ザリキ。

#### 第6節 麻痺性癡呆以外ノ黴毒陽性患者ノW氏反應ニ於ケル凝集度

##### 第1項 「チフス」罹患及び豫防接種等ノ既往症ナキ11例ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第14表 他ノ黴毒陽性患者ニシテ既往ニ於テ「チフス」

罹患並ニ豫防接種ナキ11例ノ Widal 氏反應

検査番號	姓名	性別	病名	W 氏 反 應 凝 集 度		
				T	P. A	P. B
1	江 ○	♂	脊髓膜炎	25+, 50+	50-	25-
2	吉 ○	〃	〃	25+, 50+ 100±	50-	25±
3	八 ○	〃	〃	25+, 50±	50-	25+, 50±
4	橋 ○	♀	躁病	25+, 50±	50-	25+, 50±
5	津 ○	♂	〃	25+, 50±	50-	25±
6	金 ○	〃	〃	25-	50-	25-
7	本 ○	〃	鬱憂症	25+	50-	25-
8	松 ○	〃	〃	25+, 50+ 100±	50±	25+
9	宮 ○	〃	精神病性 變質者	25+, 50+ 100±	50-	25±
10	坂 ○	〃	癲癇症	25+, 50+ 100+, 200±	50-	25+, 50±
11	山 ○	〃	〃	25-	50-	25-
總 平 均				65.9	?	22.7

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ハ0トシテ計算セリ。

1) 腸チフス診断液 25倍陰性2例、陽性1例、50倍陽性4例、100倍陽性3例、200倍陽性1例ニシテ其ノ平均ハ65.9倍ナリ。

2) P.A 診断液 50倍陽性1例、他ハ悉ク陰性ナリ。

3) P.B 診断液25倍陰性、陽性各4例、50倍陽性3例、平均22.7倍ナリ。

### 第2項 既往ニ於テ混合ワクチン注射セシ3例(4年—12年

前接種)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第15表 他ノ黴毒陽性患者ニシテ既往ニ於テ豫防接種セシ3例及ビ「チフス」罹患セシ1例ノWidal氏反応

検査番號	姓名	性別	病名	豫防接種ノ種類及ビ罹患後ノ経過時間	W氏反應凝集度		
					T	P.A	P.B
1	茅○	♂	躁病	混合ワクチン注射 4年前	25++, 50++, 100++ 200+, 500+	50±	25++, 50++, 100++ 200++, 500+, 1000+
2	市○	♀	鬱憂症	〃 1-2年前	25+, 50±	25+, 50±	25++, 50+, 100+ 200+
3	佐○	♂	神經衰弱	〃 7年前	25++, 50++, 100++ 200+	50-	25++, 50+, 100+
				平均	250.0	?	433.3
4	中○	♀	癲癇症	チフス罹患 10年前	25+, 50±	50-	25-

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ヲ0トシテ計算セリ。

1) 腸「チフス」診断液 50倍、200倍、500倍各陽性1例宛ニシテ其ノ平均ハ250倍ナリ。

2) P.A 診断液 50倍陰性1例、陽性2例、平均不明ナリ。

3) P.B 診断液100倍、200倍、1000倍各1例宛陽性ヲ示シ、其ノ平均ハ433.3倍トナル。

### 第3項 既往ニ於テ「チフス」罹患セシ1例(10年前罹患)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

腸「チフス」診断液ハ50倍陽性、「パラチフス」A及ビB診断液ハ共ニ陰性ヲ示セリ。

#### 第7節 其ノ他ノ疾患ニ於ケルW氏反應ノ凝集度

既往ニ於テ「チフス」罹患或ハ豫防接種ノ共ニナキ3例、及ビ以前「チフスワクチン」接種セシ2例(9年及ビ23年前接種)ノ凝集稀釋倍數ニ就テ

第16表 其ノ他ノ疾患ニ於ケルWidal氏反應

検査番號	姓名	性別	病名	豫防接種ノ有無及ビ其経過時間	W氏反應凝集度		
					T	P.A	P.B
1	山○	♀	亢奮性癲愚	ナシ	25++, 50±	50-	25-
2	伊○	♂	「モルヒネ中毒」「コカイン中毒	〃	25++, 50+ 100±	50-	25+, 50±
3	北○	〃	關節リヨウマチス	〃	25+, 50±	50-	25+, 50±
				平均	66.6	50-	33.3
4	柿○	♂	急性酒精中毒	チフスワクチン注射 9年前	25++, 50++, 100++ 200+, 500+	50-	25±
5	今○	〃	非亢奮性癲愚	〃 23年前	25++, 50+, 100++ 200+	50-	25±
				平均	350.0	50-	25.0

備考 総平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」ヲ0トシテ計算セリ。

1) 腸「チフス」診斷液 既往ニ於テ罹患、接種共ニナキモノニ於テハ50倍陽性2例、100倍陽性1例、平均66.6倍ニ對シ、以前豫防接種セシモノハ200倍、500倍陽性各1例、平均350倍トナリ遙カニ高度ヲ示ス。

2) P.A 診斷液 兩者共ニ50倍陰性ナリ。

3) P.B 診斷液 前者ハ25倍陰性1例、50倍陽性2例、平均33.3倍ニ對シ、後者ハ25倍陽性2例ニシテ平均25倍トナリ大シタ差異ナク、僅ニ前者ニ於テ凝集度高キヲ見タリ。

### 第8節 全例ノW氏反應凝集度ノ總平均

全128例ニ就キ既往ニ於テ「チフス」罹患及ビ豫防接種ノナキモノ、豫防接種セシモノ、「チフス」罹患セシモノニ分類シ、各Widal氏反應凝集度ノ總平均ヲ見ルニ次表ノ如シ。

第17表

検査人員及ビ各 既往ニ於テ 「チフス」罹患 及ビ豫防接種ノ有無	Widal氏反應 ノ種類	人 員	W氏反應凝集度			備考 ( )内數字ハ 凝集度50倍 (-)以下ヲ便 宜上零トシテ 計算セルモノ ナリ。
			T	P.A	P.B	
「チフス」罹患及ビ豫防接種ノナ キモノ	89例		67.98 (61.79)	— (3.37)	25.28 (19.66)	
豫防接種セシモノ	24例		279.17 (%)	— (12.50)	97.92 (89.58)	
「チフス」罹患セシモノ	15例		163.33 (%)	— (6.67)	31.67 (26.67)	

### 第9節 興味アル症例ニ就テ

#### 第1例 Widal氏反應陰性ヲ示シタル「パラチフスB」患者

年齢14歳 ♂ 小學生 初診 昭和12年7月26日 病名 熱性譫妄症。

初診 1週間前ヨリ發病ス。後譫妄狀態トナリ、幻視ヲ主トシ不安狀態ヲ呈ス。初診當時體溫39.4°C、脈搏146ヲ數ヘ、榮養著シク惡々羸瘦ス。皮膚ハ乾燥シ、舌白苔アリ乾燥ス。下痢1日2、3行、脾臟ヲ觸知セズ、齶歛疹ナシ。熱性譫妄症ト診斷ス。臨床的ニ「チフス」疑似症狀ヲ呈シタルヲ以テ直ニW氏反應検査ヲ施行セシ所余ノ血液検査ニ於テハ腸チフス、P.A、P.B各診斷液ニ對シ(傳染病研究所製診斷液使用)50倍陰性ヲ示シ、又醫大細菌學教室ノ検査ニ於テモ腸チフス、P.A、P.B各診斷液共最低稀釋倍數25倍ニ陰性トナリ、血液培養検査ニ於テハ「パラチフスB」菌ヲ發見セリ。即チ「パラチフスB」症ト診斷ス。

#### 第2例 Widal氏反應陽性ヲ示シタル腎孟炎ヲ合併セシ躁病患者

年齢23歳 ♀ 農婦 病名 腎孟炎ヲ合併セシ躁病。

本病ハ昭和12年7月8日頃發病シ、同年8月23日躁病ノ診斷ノ下ニ入院ス。同10月15日急ニ惡塞戰慄ヲ以テ發熱シ、體溫39°Cニ及ビ爾來1週間ニ亘リ39-40°Cノ間ヲ稽留シ、「チフス」様症狀ヲ呈ス。依テ同17日直ニ検血、檢便セリ。血液W氏反應凝集度(傳染病研究所製診斷液使用)ハ余ノ検査ニ於テ腸チフス100倍士、P.A 50倍士、P.B 200倍士ヲ示セリ。培養検査ニ於テハ血液及ビ糞便共ニ「チフス」菌ヲ培養シ得ザリキ。更ニ同19日検血ス。金澤醫大附屬病院検査部ノW氏反應検査ノ結果ニ據レバ次ノ如シ。

稀釋倍 數 診斷 液ノ種類	1:25	1:50	1:100	1:200	1:400	1:800	1:1600
	+	+	-	-	-	-	-
T	+	+	-	-	-	-	-
P.A	+	+	±	-	-	-	-
P.B	#	#	#	+	±	-	-

即チ「パラチフスB診断液ニ對シテ400倍ノ凝集度ヲ示セルヲ以テ「パラチフスB」ノ疑ヲ抱クニ至レリ。而ルニ其ノ後血液及ビ糞便培養検査ニ於テハ共ニ悉ク陰性ヲ示セリ。尙一方ニ於テ尿検セシ處尿溷濁著明ニシテ臍球夥シク腎盂上皮ノ出現多ク、大腸菌多數ヲ認ム。即チ腎盂炎ノ併發ト診斷セリ。而シテ患者ハ既往ニ於テ「チフス」罹患及ビ豫防接種ナキ所ヨリ考へ併セテ疊ニ現ハレタルW氏反應ノP.B診断液ニ對スル凝集度ハ腎盂炎發熱ニヨル非特異性凝集反應ノ結果ナリト思考サレ、「パラチフスB」ノ疑ハ全ク解消スルニ至レリ。爾後患者ハ腎盂炎ノ治療ニヨリテ併發症ハ著シク快方ニ向ヒ退院セリ。

之ヲ按ズルニ一般ニ「チフス」患者ニ於テハ發病ノ第8日以後ニ於テ特異凝集素ヲ生成セラル、モノナリトスレバ第1例ニ於テモ發病7日目ニ於テ未ダ特異凝集素ヲ生成セザル爲W氏反應陰性トナリ得可キハ當然ノコトナラン。然ル時ハ斯カル事實ヨリ觀テ「チフス」疾患ノ發病初期ニ於テハ高熱アルニモ拘ラズW氏反應検査ハ餘リ價値ヲ示サザルヲ窺知シ得ルト同時ニ培養検査ガ絕對的ニ必要ナルモノナルコトヲ立證ス。又第2例ニ於テハW氏反應凝集度ハ可ナリ高度ヲ示シタルニモ拘ラズ培養検査ニ於テハ陰性ヲ示タル事實ヨリ考フレバW氏反應ノ凝集度ハ「チフス」診斷上絕對的價値アルモノトハ考ヘラレズ、培養検査ガ最モ必要缺ク可カラザルモノナルコトヲ明ニセリ。

### 第3章 總 括

#### 第1節 癪瘺性癱瘓患者ノW氏反應凝集度

1) 腸「チフス」診断液一般ニ可ナリ高度ナル凝集度ヲ認メ、既往ニ於テ「チフス」罹患セシ3例及ビ豫防接種セシ6例ハ共ニ平均166.6倍トナリ、罹患及ビ接種ナキ16例ハ85.9倍ヲ示シ、前二者ノ約1/2トナル。

2) P.A診断液 1例ヲ除キ他ハ悉ク50倍陰性ヲ示シ其ノ差異明ナラズ。只既往ニ於テ罹患並ニ接種共ニナキ1例ニ於テ200倍陽性ヲ見タルハ特異ナル所見ナリ。

3) P.B診断液 一般ニ陰性ヲ示スモノ多シ。其ノ平均ハ以前豫防接種セシモノ50倍トナリ、「チフス」罹患者ハ16.6倍、罹患、接種共ニナキモノハ6.25倍ヲ示ス。即チ以前豫防接種セシモノ最モ凝集度高ク、「チフス」罹患者之ニ次グ。

#### 第2節 早發性癱瘓患者ノW氏反應凝集度

1) 腸「チフス」診断液 一般ニ可ナリ高キ凝集度ヲ認メ、殊ニ以前豫防接種セン5例最高モ高ク平均330倍ヲ示シ、以前「チフス」罹患セシモノ5例ハ240倍、罹患、接種共ニナキ17例ハ45.5倍トナル。

2) P.A診断液50倍陽性ヲ呈セシモノ以前豫防接種者ニ於テ2例、罹患、接種共ニナキモノニ於テ1例ヲ見タルノミニシテ他ハ悉ク陰性ヲ呈シ、從ツテ大ナル差異ナキ様ニ思ハル。

3) P.B診断液平均ニ於テ餘リ差異ナク、以前豫防接種セシモノ40倍トナリ最モ高ク、罹患、接種共ニナキモノ23.5倍、以前「チフス」罹患セシモノ20倍ヲ示セリ。

#### 第3節 躁鬱病患者ノW氏反應凝集度

1) 腸「チフス」診断液 既往ニ於テ豫防接種セシ5例ノ内最高1000倍陽性ヲ示セルモノ1例アリ。其ノ平均モ300倍トナリ可ナリ高度ナル凝集度ヲ示セリ。又以前「チフス」罹患セシ3例ノ平均ハ133.3倍、罹患、接種共ニナキ27例ニ於テモ平均84.2倍ヲ示シ高度ナル凝集

度ヲ呈セリ。

- 2) P.A 診斷液 大體ニ於テ餘リ大シタ差異ナシ。
- 3) P.B 診斷液 平均ニ於テ以前豫防接種セシモノ 60 倍, 「チフス」罹患セシモノ 58.3 倍ニシテ大シタ差異ナク, 罹患, 接種共ニナキモノハ 33.3 倍トナリ前二者ニ比シ凝集度低シ。

#### 第4節 「ヒステリー」及ビ變質病患者ニ於ケル W 氏反應凝集度

- 1) 腸「チフス」診斷液 以前豫防接種セシ 3 例ノ平均最モ高ク 366.6 倍ヲ示シ, 「チフス」罹患セシ 2 例ハ 125 倍, 罹患, 接種共ニナキ 11 例ノ平均ハ 47.7 倍トナル。
- 2) P.A 診斷液 大體ニ於テ差異ヲ認メズ。
- 3) P.B 診斷液 大體ニ於テ差異ナク, 既往ニ於テ罹患, 豫防, 接種共ニナキモノ最モ低キ凝集度ヲ示ス。

#### 第5節 動脈硬化性疾患ノ W 氏反應凝集度

- 1) 腸「チフス」診斷液 既往ニ於テ罹患, 接種共ニナキ 4 例ノ平均 43.7 倍トナリ, 「チフス」罹患セシ 1 例ニ於テモ 50 倍陽性トナリ, 一般ニ凝集度低シ。
- 2) P.A 診斷液 悉ク 50 倍陰性ナリ。
- 3) P.B 診斷液 既往ニ於テ罹患, 接種ノ共ニナキモノハ平均 25 倍トナリ, 「チフス」罹患セシ 1 例ハ 25 倍陰性ヲ示シ, 共ニ集度低シ。

#### 第6節 麻痺性癡呆以外ノ黴毒陽性患者ノ W 氏反應凝集度

- 1) 腸「チフス」診斷液 以前豫防接種セシ 3 例ノ平均最モ高ク 250 倍ヲ示シ, 罹患, 接種共ニナキ 11 例ノ平均 65.9 倍ナリ。
- 2) P.A 診斷液 全例ニ於テ 50 倍陽性 3 例, 他ハ悉ク 50 倍陰性ニシテ差異明ナラズ。
- 3) P.B 診斷液 以前豫防接種セシモノ平均 433.3 倍トナリ 最モ高ク, 内 1 例ニ於テ 1000 倍陽性ヲ見タルハ特異ナル例ナリ。罹患, 接種ノ共ニナキモノハ 22.7 倍トナル。

#### 第7節 癡愚中毒症, 「リウマチス」等他ノ疾患ニ於ケル W 氏反應凝集度

- 1) 腸「チフス」診斷液 以前豫防接種セシ 2 例ノ平均ハ 350 倍ヲ示シ 可ナリ 高度ナル凝集度ヲ示セリ。
- 2) P.A 診斷液 悉ク 50 倍陰性ナリ。
- 3) P.B 診斷液 大シタ差異ナシ。既往ニ於テ罹患, 接種共ニナキモノ僅ニ高キ凝集度ヲ示セリ。

#### 第8節 全例ノ平均ニ就テ

- 1) 腸「チフス」診斷液 以前豫防接種セシモノ平均 279.17 倍, 「チフス」罹患セシモノ 163.33 倍, 罹患, 接種共ニナキモノ 67.98 倍トナリ, 即チ腸「チフス」診斷液ニ對スル凝集反應度可ナリ高度ナルヲ認メ, 既往ニ於テ「チフス」罹患, 或ハ豫防接種ノ有無ニヨリ大ナル差異アリ, 豫防接種セシモノ最モ凝集度高度ナリ。
- 2) P.A 診斷液 大體差異ナキモ以前豫防接種セシモノ最モ凝集度高シ。
- 3) P.B 診斷液 同様ニ以前豫防接種セシモノ最モ高度ニシテ 97.92 倍ヲ示シ, 他ノ二者

=於テハ餘リ差異ナシ。僅ニ「チフス」罹患セシモノノ高度ナルヲ示セリ。

#### 第9節 豫防接種後、及ビ「チフス」罹患後ノ經過時間トW氏反應凝集度ノ高低

豫防接種後比較的早期ニ於テハ稍々高度ニシテ其ノ後ハ漸次低下ノ傾向ヲ示ス。只例外トシテ「チフスワクチン」接種後23ヶ年經過後腸「チフス」診斷液ニ對シ200倍陽性ヲ示シ、P.B診斷液ニ於テハ混合ワクチン」接種後12ヶ年經過後ニ200倍陽性ヲ示シタル例アリ、稍々特異トスル例ナリ。又最高ヲ示シタルハ腸「チフス」診斷液ニ對シ混合ワクチン」注射後2ヶ年目ニ1000倍陽性、P.B診斷液ニ對シ混合ワクチン」接種後4ヶ年目ニ1000倍陽性ヲ示セシモノヲ見タリ。然レドモ本検査ニ於テハ「チフス」罹患後ノ經過時間ノ長短ニヨリテW氏反應凝集度ニハ著シキ差異ヲ認メ得ザリキ。

#### 第10節 W氏反應凝集度ノ價値ニ就テ

既ニ第2章第9節ニ於テ述べタル如ク「チフス」疾患ハ其ノ發病ノ初期ニ於テ未ダ特異凝集素ノ生成ヲ見ザル場合アリ、又類似疾患罹患ニ於テモ非特異ナル凝集反應ヲ呈スルコト屢々相遇スル所ナルヲ以テ只W氏反應凝集無キヲ以テ直ニ「チフス」罹患陰性ト斷言シ、又凝集度單ニ高度ナルヲ以テモ速急ニ陽性ナリト斷定シ得ズ。故ニ該反應ノ凝集度ハ診斷上絶對的ノモノニ非ザルモノナリト認ムル所以ナリ。

### 第4章 考 按

健康者(從來「チフス」屬疾患ナク、豫防接種モナシ)ト雖モ其ノ血清ニ於テ一定稀釋ニ於ケル迄 Widal 氏反應陽性ヲ呈スル事ハ Grüber, Grünbaum, Stern, Sklonwer, Fröster, Grasser, Dennewark, 矢部, 川口, 三浦氏等ニヨリテ立證セラレ、又肺結核、結核性腦膜炎、流行性腦脊髓膜炎、格魯布性肺炎、發疹チフス」、「ワイル氏病」、「ガルトネル菌感染」、「プロテウス菌感染」、「インフルエンザ」、「マラリア」、大腸菌ニヨル疾病、葡萄狀球菌ニヨル疾病、肝臟疾患、蟲様突起炎、黴毒性疾患等非チフス性疾患ニ於テモ Widal 氏反應凝集度ノ高キコトアルハ既ニ多數報告セラレタル所ナリ。而シテ余ハ主トシテ身體的健康ナル精神病患者ノ凝集度如何ヲ檢セシニ「チフス」罹患、豫防接種等ノ既往症ナキ89例ノ平均ハ腸「チフス」診斷液ニ於テハ67.98倍、P. B. 診斷液ニハ25.28倍トナリ、P. A. 診斷液ニ對シテハ第17表( )内ニ示スガ如ク最モ凝集度低シ、即チ日常非チフス性精神病患者ニ於テモ之亦可ナリ高度ナル凝集度ヲ示スヲ窺知シ得タリ。余ハ検査前ニ當リ既往ニ於テ「チフス」罹患或ハ豫防接種ノ有無ニ就キ可及的正確ヲ期シタルニモ拘ラズスカル高度ナル凝集度ヲ示シタルコトハ甚ダ奇異トスル所ナリ。而シテ其ノ原因ヲ考察スルニ精神病患者ノ訴フル所ハ眞偽甚ダ正確ナラザル點多々アリ。既往ニ罹患或ハ接種セシ事アリテモソレヲ忘却セル者ナシトハ斷言シ得ズ、或ハ亦單ニ類屬反應ヲ呈シタル場合ヲモ考慮セザルベカラズ。何レニモセヨ何等カノ原因ニヨリ斯ク高度ナル凝集度ヲ示セルモノナラン。

又余ノ場合ニ於テ1例ノ非進行性肺尖加答兒合併セシモノアルモ其ノ凝集度ハ腸「チフス」診斷液ニ於テ100倍陽性ヲ示シタルノミニシテ特ニ高度ナル凝集度ハ之ヲ認メ得ザリキ。

豫防接種後數ヶ月一數ヶ年間經過セル後モ尙 Widal 氏反應高度ニ現ハル、事ニ就テハ Goldschmidt, Schembra 氏ハ接種 1, 2 年後時ニハ 1000 倍以上ヲ有スルコトアリト述べ、又 Huber, 大瀧、矢田、大城、良田、川口、増田、松山氏等モ可ナリ長年月 Widal 氏反應凝集價高度ナルヲ報ゼシ所ナリ。今更ニ余ハ 24 例ノ精神病患者ニシテ 1 年—23 年前ニ「チフスワクチン」或ハ混合ワクチンヲ接種セシモノニ Widal 氏反應検査ヲ施行セシニ 1 例ニ於テ混合ワクチン接種 2 年後腸「チフス」診斷液ニ對シ 1000 倍陽性ヲ見、P.B 診斷液ニ對シ混合ワクチン接種後 4 年目ニ 1000 倍陽性ナル 1 例ヲ見タリ。又其ノ凝集度平均ニ於テモ腸「チフス」診斷液ハ 279.17 倍、P.B 診斷液 97.92 倍トナリ、P.A 診斷液ニテモ第 17 表( )内ニ示スガ如ク前二者ニ比シ遙カニ低シ即チ凝集度著シキ高度ナル點ニ於テ上記諸氏ノ報告ト大體ニ於テ一致ス。

尙 P.A 及ビ P.B 診斷液ニ對シテモ斯ク高度ナル凝集度ヲ示シタルハ混合ワクチン注射セシモノハ勿論何等疑ナキ所ナレドモ、或ハ既往ニ於テ「パラチフス」罹患セシモ輕度ナル爲氣付カザリシカ、又ハ幼少時ノ爲、或ハ成人後モ偶々精神異常ノ爲忘却セラレシカ、或ハ亦混合ワクチン注射セシニ「チフスワクチン」注射施行ト誤信シ居タルニ因ルモノナルヤモ知レズ、其ノ點健康人ト幾分差異アルモノト考フ。或ハ Jürgens, Stern, Korfe, Drigalski, Gruenberg, 橋本氏等ノ述ベシ如ク非特異性反應ノ存在モ亦考慮ニ入レザルベカラズ。

既往ニ於テ「チフス」罹患セシモノニシテ數年後ニ至ルモ Widal 氏反應高度ヲ示ス場合アルハ Curschmann u. Hirsch, Krüse, Romberg, Kolle u. Hetsch, Huber, 大城、良田氏等ノ報告セル所ニシテ余ノ場合ニ於テモ 15 例ノ精神病患者ノ 3 年—12 年前ニ「チフス」罹患セシ者ニ就テ Widal 氏反應ヲ檢シ大體上記諸氏ノ報告ト一致シ數年後ニ於テモ可ナリ高度ノ凝集度ヲ認メタリ。即チ其ノ平均ハ腸「チフス」診斷液ニ於テハ 163.33 倍、P.B 診斷液ハ 31.67 倍ヲ示シ。P.A 診斷液ニテモ第 17 表( )内ニ示スガ如ク前二者ニ比シテ遙カニ低シ尙既ニ述べ來レル如ク既往ニ於ケル「チフス」罹患トアルハ恐ラク腸「チフス」ナランモ、精神病患者或ハ家族ノ言ニ依ルモノナルヲ以テ腸「チフス」ナルカ「パラチフス」ナルカ正否判然セザレバ茲ニハ單ニ總テ「チフス」症トシテ記載セリ。而シテ該患者ハ腸「チフス」診斷液ニ對シテノミ斯ノ如キ高度ナル凝集度ヲ示シタルハ即チ既往ニ於テ腸「チフス」ヲ罹患セシモノ大部分ヲ占メル事實ヲ明ニセシモノナリト思考ス。

黴毒性疾患ニ於ケル Widal 氏反應陽性ヲ示ス場合ハ大城、鈴木、吉田、川口氏等ノ述べタル所ニシテ余ノ場合ニ於テモ 25 例ノ進行性麻痺性癡呆患者、及ビ 15 例ノ其ノ他ノ黴毒陽性疾患ニ於テ既往ニ腸「チフス」罹患及ビ豫防接種ノ有無ニ拘ラズ可ナリ高度ナル凝集度ヲ示シ、上記諸氏ノ報告ト一致ス。

## 結論

余ハ既往ニ於テ「チフス」罹患並ニ豫防接種ナキ 89 例、豫防接種セシ 24 例、「チフス」罹患セシ 15 例、合計 128 例ノ精神病患者ノ大部、神經病患者少數ノ血清ニ就テ Widel 氏反應凝集度

ヲ検査シ次ノ結論ヲ得タリ。

- 1) 腸「チフス」, 「パラチフス」A 及ビ B 各診断液ニヨル Widal 氏反応ノ平均凝集度ハ既往ニ豫防接種セシモノノ血清最モ高ク, 次ハ「チフス」罹患ノ既往ヲ有スルモノナリ。罹患, 豫防接種共ニナキモノハ最モ凝集度低シ。
- 2) 各診断液ニヨリ平均凝集度ハ大ナル差異ヲ生ジ, 腸「チフス」診断液ニヨル凝集度最モ高ク, 次デ「パラチフス」B, 「パラチフス」A ノ順ナリ。
- 3) 疾病ノ相違ニヨリ上記(1)及ビ(2)關係ニ於ケル凝集度ハ多少差異ヲ認メラル、モ特ニ其ノ高低ニ一定ノ關係ヲ認メ得ザリキ。
- 4) 既往ニ於テ「チフス」罹患及ビ豫防接種等ナキ全89例ノ平均凝集度ハ腸「チフス」診断液ニ對シ 67.98 倍, 「パラチフス」A 診断液ニハ 3.37 倍, 「パラチフス」B 診断液ニ對シテハ 25.28 倍トナリ可ナリ高度ノ凝集度ヲ示セリ。
- 5) 既往 2 年前豫防接種セシ躁病患者ノ腸「チフス」診断液ニ對シ及ビ同シク 4 年前ノ黴毒陽性躁病患者ノ「パラチフス」B 診断液ニ對シ凝集度 1000 倍ヲ呈セル各 1 例ヲ認ム。
- 6) 豫防接種後經過年數ヨリ Widal 氏反応凝集度ヲ見ルニ年數短キモノハ一般ニ稍々高キ傾向ヲ示ス。然ルニ本検査例ニ於テハ「チフス」罹患後ノ凝集度ハ斯ノ如キ關係ヲ得ザリキ。
- 7) Widal 氏反応ノ凝集度ハ「チフス」診断上絶對的價値アルモノト考ヘラレズ, 培養検査が最モ必要ナリ。

謹筆スルニアタリ谷教授ノ御懇篤ナル御教示並ニ御校閱ニ對シ深謝ス。

## 文 献

- 1) 大瀧潤家, 「チフス」豫防注射ト凝集反應, 實驗醫報, 第 9 年, 107 號, 大正 12 年。 2) 吉岡正明, ウイダール氏反應ニ就テ, 東京女醫學會雜誌, 第 3 卷, 第 2 號, 昭和 8 年。 3) 増田知眞, 腸チフス, B 型「パラチフス」豫防接種後ニ於ケル血清凝集價ノ消長ニ就テ, 軍醫團雜誌, 第 195 號, 昭和 4 年。 4) 松山翠, 腸チフス」ノウイダール氏反應ニ就テ, 日本醫事新報, 第 702 號, 昭和 11 年。
- 5) 大城盛方, 凝集反應ノ診斷的價値ニ關スル研究, 臺灣醫學會雜誌, 第 295 號, 昭和 4 年。 6) 猪坂威, 腸チフス, B 型「パラチフス」混合「ワクチン」接種前後ニ於ケル壯年男子血清ノ Widal 氏反應ノ消長ニ就テ, 十全會雜誌, 第 42 卷, 第 1 號, 昭和 12 年。 7) 良田圭子, ウイダール氏反應ト診斷液ニ就テ, 東京女醫學會雜誌, 第 3 卷, 昭和 8 年。 8) 三澤, 木口, ウイダール氏反應凝集反應ノ分析的研究, 日本傳染病學會雜誌, 第 5 卷, 第 12 號, 1341 頁, 昭和 6 年。 9) 片山, 宮永, 特異性及ビ非特異性「チフス」凝集血清ノ差異ニ就テ, 愛知醫學會雜誌, 第 31 卷, 第 6 號。 10) 山口肇, 結核患者血清ノ「チフス」屬菌凝集作用ニ就テ, 滿洲醫學會雜誌, 第 46 卷, 第 4 號。 11) 佐々, 鈴木, 肺結核患者ノ血清ノウイダール氏反應ニ就テ(第 1 回報告), 結核, 第 2 卷, 第 2 號, 大正 13 年。